

(別紙様式 = 中学校用)

都道府県番号	28
都道府県名	兵庫県

【 】

\*重点をおいた観点にチェックすること

### 学校の概要

学校名	加古川市立中部中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	8	9	9	2	28	53
生徒数	314	331	335	6	986	

### 研究の概要

#### (1) 研究主題

「確かな学力の向上」を目指したきめ細かな指導の工夫  
—— 自ら学び、自己の向上を目指す生徒を育てるために ——

#### (2) 研究主題設定の趣旨

本校では、13年度から個に応じた指導等新学習システムを実施して、少人数授業などきめ細かな指導推進に取り組んできた。  
しかし、学習習慣が定着しない生徒も多く、休み明けの授業では、学習意欲の欠如がみられ、「自ら学び、自己の向上を目指す生徒」の育成が急務であると考えていた。  
そこで、学習習慣を定着させて、基礎・基本の確実な定着と発展を図る指導・支援システムを確立し、「確かな学力」を向上させるために、新学習システムと一体的に推進して指導の一層の充実を図るために本主題を設定した。

### 研究の概要

#### (1) 研究推進体制の工夫

推進委員会を 基礎学力部会 教科部会 調査統計部会の3部会に分け、生活・学習習慣の実態をつかみ、主体的に学び力や意欲の育成のために課題を明らかにして、全職員に指導体制の共通理解を図っている。

#### (2) 研究の実際

- 少人数授業などきめ細かな指導 -

##### ねらい

一人一人を大切にしたい少人数のきめ細かな授業と計算力検定の実践により、基礎・基本の定着と発展を図り、確かな学力を向上させ自ら学び考える力を育む。

##### 推進の内容

個の理解に応じた少人数授業と支援システムにより基礎・基本の定着を図る。

- ・1年数学は、1クラスで2コースの少人数授業を実施する。  
(コース編成は生徒の希望を中心に学期ごと)
- ・2年数学と3年数学は、2クラスで1つの少人数の基礎・基本コースを編成する。  
(コース編成は生徒の希望を中心に学期ごと)

- ・「努力を期待する」生徒の支援システムを推進する。  
単元ごとの自己評価テスト 単元テスト 補充学習 再評価
- ・基礎・基本の徹底を図るための授業を推進する。  
単元の評価規準・基礎を明確にしたわかりやすい授業と繰り返し学習、5分間計算ドリルの実施、フラッシュカード、コース別教材の開発

(マスターコース(基礎・基本を重視)と基礎から応用コースの指導案)  
【マスターコースの指導過程】

学習のねらいと発問	学 習 活 動	評価・配慮事項
1 導入課題の設定	・これは何の一部なのかを予想してカレンダーであることに気づく。 ・どのように考えたかを発表する。	【関心・意欲・態度】 課題に意欲的に取り組もうとしているか。【観察】 カレンダーの規則性を理解させる。
2 課題の把握	課題 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     このカレンダーの中のある数にその真上の数と真下の数を加えると48になります。その数は何でしょう。                 </div>	【関心・意欲・態度】 課題に意欲的に取り組もうとしているか。【観察】  カレンダーの規則性を利用し、個々の考えをまとめることができているか。【机間指導】 生徒の意見を取り上げ、さまざまな考え方を評価する。
3 解決方法の検討 ：求め方の確認	ア カレンダーの中から見つける。 イ 真ん中の数の3倍になる。 ウ 方程式をつくる。 どのように考えたかを発表する。	
4 課題の解決 ：数量関係の把握	・算数的な考え方で解決しようとする。 $48 \div 3 = 16$ 真上の数は $16 - 7 = 9$ 真下の数は $16 + 7 = 23$ $9 + 16 + 23 = 48$	数量の関係をとらえることができているかを確認し、式の意味を吟味する。 答えが問題に合っているかを確かめさせる。
5 課題の解決 ：式表示	・方程式を作って解決しようとする。 ある数を $X$ 、真上の数を $X - 7$ 、真下の数を $X + 7$ として $(X - 7) + X + (X + 7) = 48$	【表現・処理】 求める数を $X$ とおいて方程式が作れるか。【机間指導】

【基礎から応用コースの指導過程】

学習のねらいと発問	学 習 活 動	評価・配慮事項
1 課題の把握	課題 1 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     このカレンダーの中にある数にその真上の数と右にある数をたすと81になります。その数は何でしょう。                 </div>	実際に今年のカレンダーを掲示する。  アの方法のよさも認める。  方程式を作るために文字を用いることを確認させる。
2 解決方法の検討 ：求め方の確認	ア 1つのカレンダーの中から見つける。 イ 方程式をつくって考える。 ・自分ならどの方法で求めるか選択させる。	【関心・意欲・態度】 自分なりの方法で問題を解決しようとしているか。【観察】  カレンダーの数の規則性に注目させる。
3 課題の解決 ：数量関係の把握	・真上の数は、1週間前の日だから7日前、右どなりの数は翌日だから1日後である。	【見方や考え方】 文字を用いて数量の関係をとらえることができるか。
4 課題の解決 ：式表示 「求める数を $X$ として、方程式をつくって考えてみよう」	・求める数を $X$ とすると、その真上の数は $X - 7$ 、右どなりの数は $X + 1$ だから $(X - 7) + X + (X + 1) = 81$ という方程式が成り立つ。	【表現・処理】 求める数を $X$ として方程式が作れるか。また、解を求めてその適否を説明できるか。 方程式を作ることができない 3つの数を $X$ を用いて表すことで、数量関係をとらえやすくする。 数量関係を的確にとらえて方程式を作り、解の適否をわかりやすく説明することができるか。
5 結果の確認	・方程式を解いて $X = 29$ を求める。	

- ・全員合格をめざす「中部中計算力検定(6級 1級)」の実施により、「わかる喜び」や「やればできる」ことを体験させ主体的に学ぶ力や意欲を育てる。
- 計算力検定練習(2週間前から休日の宿題とする) 「学びタイム」(学級で教え合い) 計算力検定 補充学習 再チャレンジ(合格するまで)

(各級の内容)

級	出題内容	学年	実施
1	正負の数、文字と式、1次方程式、式の計算 連立方程式、因数分解、多項式の計算、 平方根、2次方程式、三平方の定理	3年	12月
2	正負の数、文字と式、1次方程式、式の計算 連立方程式、因数分解、多項式の計算、 平方根、	3年	7月
3	正負の数、文字と式、1次方程式 式の計算、 連立方程式、平行線と角、多角形と角	2年	12月
4	正負の数、文字と式、1次方程式、式の計算 連立方程式	2年	7月
5	正負の数、文字と式、1次方程式	1年	12月
6	正負の数	1年	7月
診断	整数、小数、分数の計算、倍数と約数、 図形の面積、百分率、比、面積と体積	1年	4月

- ・計算力検定練習問題を通して集中学習を行う。
- ・一人一人の到達状況を把握し学びタイムや少人数コース別授業きめ細かな支援を行う。
- ・夏季・冬季補充コースで徹底した生徒への支援を行い何度でも再チャレンジさせる。
- ・基本的な生活、学習習慣及び家庭学習の指導を通して、自ら学ぶ力を育てる。

### (3) 研究の成果と課題

成果 《生徒アンケートより》

ア、あなたは学校の授業を理解していますか？

	(%)			
	よくわかる	だいたいわかる	すこしわかる	わからない
1年	12	66	19	3
2年	9	60	28	4
3年	7	63	26	4

イ、少人数コースの授業の内容はよくわかりましたか(数学)?

	よくわかった	わかった	あまり	わからなかった
1年	43	43	11	3
2年	28	51	15	6
3年	26	52	18	4

少人数授業での理解度がかなり高くなっていることがわかる。特に1年の(よくわかった、わかった)の割合が高くなっているのは1クラスを2コースに分けているので、他教科より少ない人数で授業を行えたことが原因であると思われる。

ウ、コース別少人数授業はどうでしたか？

	よかった	どちらともいえない	よくなかった
1年	59	36	5
2年	38	56	7
3年	31	66	3

コース別少人数授業が良かったと答えた理由

- ・人数が少ないので、ダラダラしないのでやる気がでて集中できた。
- ・内容を詳しく教えてもらって、わかりやすかった。
- ・選択したコースが自分に合っていて、自分に適した進度で学習ができた。
- ・普通の授業より先生に質問や発表がしやすかった。
- ・今までよりわかるようになった。

課題

- ・少人数授業を行っても、約2割の生徒があまりわからなかったと評価している。指導方法の工夫と学習習慣の定着のための手だてが必要である。
- ・2, 3年における少人数授業のコース編成方法の改善

### (4) 研究成果の普及の方策

15年度 ホームページ準備

16年度 ホームページ・研究冊子の発行(文部科学省指定)

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

生徒一人一人の学力と学習の状況に応じた少人数授業を実施するため、基礎・基本を確実に習得するためのコースと、基礎を応用させるコースを設定する。

2つのコースでは、基礎・基本の定着と確かな学力を身につけさせる観点から教材の開発を行っている。開発した教材による授業は、生徒へのペーパーテストとアンケート結果に基づき、その有効性を検証している。